

認知症ケア勉強会

認知症ケアチームとしての問題点と課題を整理するとともにケアチームとしての向上をめざす

稲村ガ崎きしる ユニット勉強会

この内部研修のねらい

- 研修の成果を個人から認知症ケアチーム(ユニットメンバーとして)へ還元させることが目的です。
- 当施設(認知症ケアチーム)としての問題点と課題について示させていただきました。
- 個別の入居者がどう変わったかではなく、スタッフ自身として、チームケアとしてどのような効果と成果があったかということをねらいとしていきます。
- ワークを積極的にとり入れていきます。

この研修での修得内容

そもそも認知症とは、ということの理解ができる。
中核症状・周辺症状などをしっかりとみて整理することが、理解につながることを学ぶ。
その方のどこが、あるいはどこを見ればいいのか、認知症、中核・周辺・遠隔・近時・即時なのかどうかにより、エピソード記憶・手続き記憶などを総合して、それによる係わりが導き出されることを学ぶ。

この研修での修得内容

認知症の方の内面(気持ち)と支援者には大きな隔たりがあることに気づくことを学ぶ。

- 認知症の方が
その時どう思ったか その時考えたこと
- 支援者が
その時どう思ったか その時考えたこと
- 自分の対応への気づきが自分自身の行動変容につながる。きっかけとなる
- 介護にはなんらかの「対応」が求められる。気づきから行動変容を期待した「対応」につなげていくことができる

この研修での修得内容

コミュニケーションが大切というが、大切だと理解はしているが、実際に自分の五感を使っているのかどうか気付くとともに、五感を使ったコミュニケーションでヒューマンセンサーを読み取り、対応がしていくことができる。

そのためのコミュニケーションスキルを身につけ、身につけられるようにしていくことも支援者のスキルである。

この研修での修得内容

認知症の方(人)発する言葉、動作、しぐさ、状態をありのままを見て事実を捉えること、それを言語化することができる。さらにその事実としても状態に意味づけを行い、本人が望むケアを導き出すことの大切さを学ぶ。

- 認知症の方の支援においては、個々の方にみられる中核症状や周辺症状を把握、評価するとともに、それらの行動がどのような意味合いをもっているのかを考えることがケアの視点、対応ともの求められるところである。
- 認知症の方が安心して、心地よく生活するためには、両者の相互作用は重要である。両者（認知症の方と支援者）の間には、気持ちやその時の考えていることに大きな隔たりがあるということを知ることから始まり、その方の置かれている状況で支援者は最大限のコミュニケーションスキルを使い、次のケア次の対応につなげていくことが大切です。コミュニケーションから得られた事実を言語化し、「意味づけ」を行うことにより、本人が望むケアが導きだされることを学ぶ、またトレーニングしていく。

なぜこのような研修が必要だと考えたか

- 個々の職員で、認知症への理解（疾患として、さらには中核・周辺（細部など）と）と、なぜ今そうなのかという理解に差があるのではないだろうか。
- 差があるとすると求められる「対応」にも差がでていかもしれないから
- 支援者が認知症の方の介護場面での内面に気づいているだろうか（同時に支援者という自分自身への内面も）対応？ 介助？ はしているが、本人の望む「対応」「介助」をしているかどうかわからない状態ではないだろうか。

自分と自分を取り巻く認知症ケアチームの現状と問題点について

この方は認知症だからではなく認知症という病気の状態をしっかりと評価する必要がある。

支援者の持ち得るコミュニケーションスキルを使って、その方の内面を知ろうとしているだろうか。そこからケアや対応へつなげているだろうか。

事実をとらえ、事実を言語化しそれへの意味づけを行い、本人が望むであろうケアや対応にむずびつけているだろうか。

自分と自分を取り巻く認知症ケアチーム目的

- 課題を達成するために、この4週間で認知症の中核症状と周辺症状を理解、個々に違いがあることを知る。介護は相互作用であるので、だからこそ自分自身の内面も知り、両者の内面に気づくところから求められるケアにつなげるをやる。については事実言語化のトレーニングをまずやる

第1週目

- この研修で学んだこと、気づいたことを整理し、現場へ反映させることが目的であることを伝える。自分と自分を取り巻く認知症ケアチームの現状の課題について番街七番街スタッフとまず共有し、共通認識までいけるようにすることを伝える。
個人ワーク その方の認知症の症状を書き出す

第2週目

- そのその認知症とは何か、ある方(個人ワークから)の事例を通して。認知症といういわれる、思う症状を出してみる。そこからの整理により、認知症とはなにかを知る。おのずと中核症状と周辺症状にわかれてくる。知ることにより、認知症といっても個々の人で違うことが理解できる。グループワークの実施。

第3週目

- 介護は相互作用である。認知症の方、支援者の両者の内面には大きな隔たりがあることを知り、認知症の方の内面への気づきにより導きだされた「対応」「ケア」を考えてみる。グループワーク の実施

第4週目

- できれば 事実をとらえ、事実を言語化し それへの意味づけを行い、本人が望むであろうケアや対応にむずびつけているだろうか。
- Group work の実施

第5週目

- そもそも認知症とは
- 認知症の方の内面・支援者の内面、両者には大きな隔たりがあることをしり、その気づきからケアを導きだす
- 生活の中の事実を生活機能の視点でとらえ、その事実としての根拠に意味づけを行い、支援する

ワーク



その方にとっての、「うながし方」を考え、共有し、チームで共通認識する
